

## 平成 31 年度 事業計画

平成 31 年度は、第 3 期指定管理期間（平成 28 年度～平成 32 年度）の 4 年目となります。第 3 期の指定管理者の応募の際に提出した 5 年間の事業計画書に基づき、今年度も年次毎の事業計画を作成し、着実に実施してまいります。また、第 3 期は、新たなパートナーである株式会社 J T B コミュニケーションデザインと共同事業体を構成して事業を進めており、平成 31 年度も J T B コミュニケーションデザインと協働して、施設の新たな魅力向上や集客向上に向けた施策を市と協議しながら積極的に推進します。

帆船日本丸は、長期にわたる船員教育や我が国の海運業の発展に貢献したこと及び日本国内に現存する希少な「リベット構造」を持ち、国内開発された船用大型ディーゼルエンジンを搭載するなど貴重な海事遺産であることなどが評価され、平成 29 年 9 月 15 日には国の重要文化財に指定されました。今後、市と協力して文化財の価値を保全しつつ、総帆展帆、海洋教室など帆船日本丸を活用した事業も積極的に推進します。

また、帆船日本丸は船齢 89 年を迎え船体の劣化が進んでいるため、平成 30 年度から 2 か年の計画で、横浜市が国の補助金を導入して大規模な修繕工事を行います。その経費の一部に充当するため、市や横浜商工会議所と連携した募金活動を進めております。

横浜みなと博物館では、常設展示の魅力アップを図るとともに、開館 30 周年記念として、7 月には「オドロキ！日本・海の環境と開発～海といつまでも」（仮称）を、11 月には「港・ヨコハマの 1980 年代」（仮称）等の企画展を開催します。

また、横浜市が横浜みなと博物館内に昨年 3 月 27 日に開設した常設の「柳原良平アートミュージアム」の P R を積極的に行うなど、集客アップに向けた取組を引き続き進めます。ミュージアムショップでは柳原良平グッズに関して、工夫を凝らした販売促進を図ります。

日本丸メモリアルパークでは、アリーナでの音楽イベントをはじめ、横浜市や企業、団体、N P O 等と連携したイベント等を開催します。

みなとみらい 2 1 地区という賑わいエリアの特性を踏まえ、多様な主体と連携した事業に取り組み、帆船日本丸と横浜みなと博物館、日本丸メモリアルパークの一体的な運営管理を行い、賑わいづくりと集客増・収入増を図ります。

# 1 事業運営の方針

## (1) 年次計画の目標

目標は、帆船日本丸の大規模修繕工事の影響はありますが、帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場数6.5万人、日本丸メモリアルパーク利用者数161万人、来校数636校とします。また、お客様満足度97%以上を目指します。

## (2) 利用者の拡大と一層のサービスの向上

お客様に気持ち良くご利用いただくために、おもてなしの心で常に改善を行い、サービスの向上に取り組みます。利用者ニーズを的確に把握した取り組みを展開するとともに、引き続き来場者の増加が期待される、学生団体と訪日外国人に向けたキャンペーンやサービス向上策を講じます。

施設運営の大きな特徴である、登録人数計2,300人を超えるボランティアとの協力体制を引き続き充実させます。

また、JTBグループのノウハウを活用し、施設の魅力向上に向けたデータ収集や分析を行い、新たなプロモーション施策とサービスを提供します。

## (3) 安全・安心して利用できる施設管理

日頃からパーク内を巡回し、子どもや高齢者、障がい者にも安心して利用していただけるよう施設管理を行います。また、地震や津波、風水害等の発生時には、お客様の安全を第一にした避難誘導を行うなど必要な措置を迅速に講じます。

訓練センターは、災害時における帰宅困難者一時滞在施設としての役割も果たしていきます。

## (4) 料金体系の見直し

利用実績やイベント実施、繁忙日等を考慮しながら、適宜キャンペーン料金を設定するなど柔軟な料金体系を設定します。お客様のニーズに応え、帆船日本丸・横浜みなと博物館のどちらか1つの施設を見学できる単館券の発行を継続します。また、高校生料金は小・中学生と同じ料金帯の設定で継続します。

毎週土曜日は、小・中・高校生に対し、引き続き100円の特別料金とします。この料金収入は、子どもたちの社会貢献活動の一つとして周知し、帆船日本丸進水100年に向けた保存事業に使用します。

## 2 帆船日本丸事業

平成30年度及び31年度の2か年で横浜市が実施する大規模修繕の中で、懸案であったドライドック工事は平成30年度に終了しました。しかしながら、帆船日本丸は船齢89歳を迎え、船内各所に要修繕・整備箇所が多数見受けられます。船員経験のある職員が日々の船体整備に努めると共に、今年度も引き続き計画されている大規模修繕において行うべき工事や修繕の方法について検討し、横浜市に提案を致します。

さらに、作成された重要文化財帆船日本丸の「保存活用計画」に基づき、今後の保存・活用方法について横浜市と協力し、検証・検討を行います。

また帆船日本丸は、船上訓練等通じて、海・船・港に関する知識を学ぶための教育施設でもあることから、子供から大人までが楽しめる参加・体験型教育プログラムを実施し、帆船日本丸保存について、より深い理解をしていただけるよう努めます。

加えて、帆船日本丸をより多くの方に御覧いただくため、定期的な船内展示の更新、特別見学会等を実施し入場者増に努めます。



ドライドック時の状況

### (1) 保存事業

帆船日本丸を良好な状態で保存するために次の整備を行います。

#### ア 日常保守点検

公開区域を始めとした船内の安全点検、清掃、真鍮磨き、美観保持等の整備に努めます。「保存活用計画」に基づいて船体鋼材の発錆部整備、木甲板や船体木部の整備及びマスト、ヤード、その他の帆走艀装の点検・整備並びにセイルの新規作成を行います。

#### イ 年次船体整備等

船舶検査受検工事に加え、船体構造部材、帆走艀装品及び木甲板等の船体木部に関する要修繕箇所を抽出し、小破修繕工事を行います。

大規模修繕の実施に当たっては、横浜市の要請に基づく協力を行います。

#### ウ 災害防止

船内防災センターにおいて、火災や地震等の災害対策及び不法侵入者の防止に備えた24時間体制の監視を行います。

### (2) 公開事業

今年度も計画されている大規模修繕工事の工期に合わせ、船内を年間240日程度一

般公開します。船内展示室の展示内容を定期的に更新します。また、船長トーク付き特別見学会を引き続き実施し、帆船日本丸の魅力アップに努めると共に、リピーター及び新たな来場者の増加を図ります。

現役時代の帆船日本丸への乗船経験や海上勤務経験があるガイドボランティアと連携し、無料の船内ガイドサービスを毎日実施し、入場者に船内見学をより楽しんでいただき、満足度向上に努めます。

今年度も展帆ボランティアの協力を得て総帆展帆を実施いたします。総帆展帆を始め、祝日の満船飾や、毎夜イルミネーションの点灯を実施することにより、みなとみらいを訪れる方々に、帆船日本丸の美しい姿を御覧いただき、みなとみらい21地区の賑わい創出に努めます。

### (3) 青少年錬成事業等



帆船日本丸及び付属施設を活用して、青少年錬成の為の「海洋教室」、海洋教育としての「船の講座」、夏季の「小学生向けの自由研究教室」を開催し、海事思想の普及に努めます。

海洋教室カッター訓練

### (4) その他

横浜市が行う帆船日本丸大規模修繕に向けた工事個所の調査・抽出、工事方法の検討・提案、工事仕様書作成の協力を行います。

帆船日本丸の重要文化財指定に伴い、保存活用計画の運用を確実に実施するとともに、その検証を行います。また、附等の関連資料整理・保管方法について、横浜市と協議します。

## 3 横浜みなと博物館事業

横浜みなと博物館は開館30周年を迎えます。記念の企画展等を開催し記念誌を制作します。また、オープンから1周年となる「柳原良平アートミュージアム」でも記念イベントを実施します。積極的な広報活動を展開して、当館の魅力の発信力を強化し、より一層魅力的な博物館づくりと新しいファンの獲得を目指します。

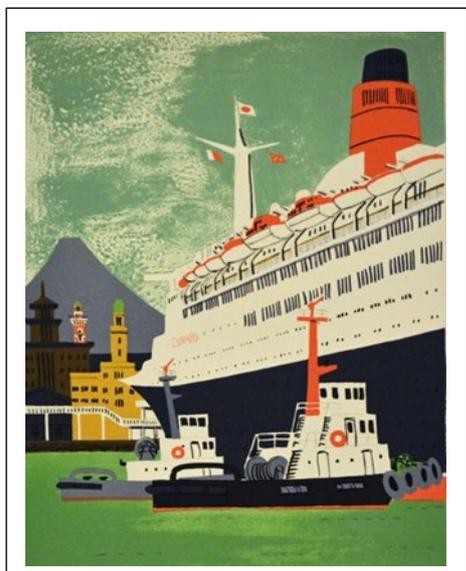
また、市民ボランティアとともに、展示や教育普及、アウトリーチ活動を通して、多くの人が海や港、船に親しみ、興味をもつことができるように、体験的な教育プログラムを実施します。

そして、こどもから大人、ファミリーまでが楽しめる博物館づくりに努め、リピーターと新しい入館者の増加を図ります。

## (1) 常設展示事業

常設展示をより、楽しんでいただくために、市民の展示案内ボランティアによる展示の案内、説明を毎日実施し、入館者の満足度向上とリピーターの確保に努めます。「学芸員のワンポイント展示解説」を引き続き実施して、展示内容の理解をより深めていただき、展示の魅力アップに努めます。製作から10年を経過した、人気の操船シミュレーターの映像展示類を更新し、来館者に良好な展示環境を提供します。引き続き、計画的な展示整備を行ってまいります。また、調査研究による成果を展示して新しい情報を発信します。

柳原良平アートミュージアムでは、一周年を機に展示替えを行うとともに、記念ウィーク入館者プレゼント、柳原良平が制作したアニメーションの上映会、「みなとみらいかもめスクール」(横浜みなとみらい21主催)と協力して「柳原良平の横浜港巡り」を行います。また、年3回特集展示を開催して、より多くの作品とその魅力を紹介し、柳原良平ファンの拡大と博物館のリピーターの創出を目指します。



リトグラフ 横浜港 (QE2 と富士) 1988年



油彩 QM2 2012年

## (2) 特別展示事業

開館30周年事業として2本の展覧会を実施します。7月開催予定の企画展「オドロキ! 日本・海の環境と開発～海といつまでも」(仮称)では、海運や造船界、また横浜港で進められている海洋環境保全の取り組みや、海洋再生可能エネルギーの開発、海洋資源探査など日本の海を活用していくための多彩なチャレンジを紹介します。

11月には、企画展「港・ヨコハマの1980年代」(仮称)を実施します。昭和から平成へと移り変わる1980年代に着目し、この時代の横浜港が果たした役割とその姿、港町・横浜のイメージを取り上げることで、新しい時代の横浜港のあり方を考えるきっかけを市民に提供します。

展 覧 会 名	会 期
開館 30 周年記念企画展「オドロキ！日本・海の環境と開発～海といつまでも」（仮称）	平成31年7月15日 ～9月29日
開館 30 周年記念企画展「港・横浜の 1980 年代」（仮称）	平成31年11月2日～ 平成32年1月13日
開館 30 周年記念展示「横浜みなと博物館の 30 年」	平成31年4月21日 ～10月31日
柳原良平アートミュージアム特集展示	
「ボクが好きな客船」（仮称）	平成 31 年 3 月 26 日～8 月 25 日
「海を見ながら・・・」（仮称）	平成31年8月27日～12月22日
「十二支と宝船」（仮称）	平成31年12月25日～ 平成32年3月22日

### (3) 教育普及事業

春は大人向けのミナト散歩、夏は小学生向けの自由研究教室や船の工作教室、親子の海図教室、秋は大人向けの海図教室、春休みには親子の船の見学会などを行います。また、1年間を通して、横浜の海、港、船について学習する横浜の小学生向け体験型事業である「横浜みなとキッズクラブ」を実施します。入館者向けには、週末土日にリピーター増加のための事業を教育活動ボランティアの協力により行います。土曜日にはこども向けクイズラリーと船の折り紙教室を、日曜日にはファミリー向けとして好評なペーパークラフト教室、国民の休日にもペーパークラフト教室と折り紙教室を行います。大人向けのクイズラリーも6月と2月に実施します。

企画展開催中は関連施設見学会や講演会、クイズラリーなどを実施し、参加者が展示についてより深く、楽しく学ぶ機会を提供します。

## 4 みなとの賑わい創出事業

### (1) 水辺の事業

#### ア シーカヤック体験教室

日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車道側水域において、NPO法人横浜シーフレンズと連携しシーカヤック教室を開催します。また、土日や祝日に開催する一般教室や子ども教室、平日教室に加え、リピーター向けに1日ツーリングコース、レスキュートレーニング講習、横浜港満喫ツーリングコースを開設しま



カヌーポロ教室

す。市内の大学との連携教室等を開催します。

#### イ カヌーポロ教室

NPO法人横浜カヌー倶楽部・横浜市カヌー協会と連携し、カヌーポロ教室を子ども向け・大人向けに開催し、青少年育成と競技の普及を目指します。

### (2) パーク利用事業（イベント）

市民交流・リサイクル事業としてのフリーマーケット、吹奏楽演奏会を初めとする音楽イベントなどを定期的で開催します。また、今年で5年目を迎え人気定着した夏のピカチュウイベントや横浜市のプロモーションイベントとの連携に取り組みます。

また、パーク内イベントの誘致や、みなとみらい21地区との連携により、パークの有効活用を積極的に進め、集客増と収入増を図ります。

## 5 緑地管理及び研修施設事業

### (1) 緑地の維持管理・活用

#### ア 安全管理・美化

床タイル舗装、柵の手摺等の劣化・破損箇所は速やかに補修し、安全・安心な施設管理を行います。また、樹木の枝の落下・倒木の予兆を把握し適切な手入れを行います。

お客様に快適に見学していただくため、引き続きグリーンボランティアの協力を得ながら、草花のプランターの配置や生き物にやさしいバタフライガーデン、バッタの原っぱ、グリーンカーテン等の環境緑化に取り組みます。

また、憩いの空間として芝生広場等を良好に維持管理するとともに、さくら通りの歩道に横浜市が設置したみなとみらい21まちかど花壇の管理を継続し、来街者へ快適な空間を提供します。

#### イ 撮影

製作会社や担当者とのコミュニケーションを密にし、撮影日時への柔軟な対応、控室の提供、相談・受付体制の充実など、多様なニーズに応えていくことで、一層の利用促進を図ります。また、撮影に適した美しい内水域の都市景観を引き続き、Webサイトで積極的にアピールします。

さらに、撮影履歴などを積極的に公開することで制作会社にアピールするだけでなく一般のお客様の来訪を促します。

### (2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

駅からのアクセスも良く、リーズナブルで使いやすいという強味を活かし、利用促進に向けた戦略的な取組を展開していきます。また、予約開始時期6か月前から行えるサービスを継続するとともに、Webでの予約方法の整備を進め、更なる利用者の利便性向上に努めます。什器類の更新を計画的に進めリピーターや新規顧客を増やして利用者増・収入増に繋がります。

## 6 集客増に向けた主な重点取組

### (1) 魅力づくり・集客アップ会議の活用によるプロモーション施策の充実

毎月行っている月次決算である「魅力づくり集客アップ会議」やワーキンググループを活用し、共同事業体のパートナーであるJTBコミュニケーションデザインが持つ施設運営ノウハウを生かしたプロモーション施策を継続して実施します。

また引き続きお客様の声（アンケート）による来場者データの収集を図るとともに分析を行い、具体の施策展開に活かしていきます。

またミュージアム・ショップならではの魅力づくりと収入増を図るため、過去の売り上げデータ分析を行い、魅力的な商品陳列、商品開発を図っていきます。

一昨年から実施しているイベント時の臨時売店も引き続き開店していきます。

また、JTBグループが持つネットワークやリソースを活かした取組を強化していきます。JTBユニット企画商品「地恵のたび」を継続し、横浜中華街の飲食店や近隣ホテル等と連携したプランにより全国から団体誘客を図ります。

### (2) 学校団体利用の誘致

学校に向けた各種取組を推進し、来館校数 636 校の達成を目指します。

ア 埼玉県や栃木県の小学校の修学旅行や北海道・東北地区・中部地区に加え、北陸地区の中学校の修学旅行の誘致

イ 日本修学旅行協会発行の学校向け『月刊教育旅行』への広告掲載による誘客

ウ 首都圏の小中高及び各旅行会社への営業訪問の実施

エ 首都圏、北関東、中部地区、東北地区及び北海道の小中高へのDMの実施（約 1 万通）

オ 帆船日本丸船長や航海士による講話の実施

### (3) 入館料金の柔軟な対応

単館券の販売動向を見つつ、春休みや夏休み等に家族やグループで気軽に、かつお手ごろな料金で来館していただけるような料金設定を検討・実施します。大人の料金帯であった高校生の料金を小・中・高校生料金として維持し、修学旅行や東京都、神奈川県を中心とした高校生の来館者を増やしていきます。

### (4) インバウンド（訪日外国人客）集客増に向けた取組

引き続き増加が見込まれる訪日外国人観光客獲得への取組として、WebサイトやSNS、多言語ガイドシステムなどにより情報発信力を高め、集客に繋げていきます。また、イベントチラシの英語版作成、夏休みの訪日外国人客の多い時期にキャンペーンの継続実施など、訪日外国人向け施策を拡充してまいります。

パシフィコ横浜や近隣施設と連携してみなとみらい21地区全体での集客を増やす工夫をします。

また、ラグビーワールドカップやアフリカ開発会議の開催を契機にした取組やクル

ーズ客船の入港増に伴う訪日外国人客への取組を横浜コンベンションビューロー等と連携して行います。

#### (5) 連携イベントによる賑わいの創出

- ア 横浜アマチュアコンボバンド連盟主催ジャズイベントの開催（ゴールデンウィーク）
- イ 横浜開港祭 2019 との連携（6月）
- ウ ピカチュウイベントの継続（8月予定）
- エ 横浜市及びみなとみらい21地区などが主催するイベント（通年）

#### (6) Webサイトリニューアル

財団のWebサイトの運用を効率化し、スマートフォンでの表示やWebアクセシビリティに対応させ、見やすく使いやすいサイトにします。また、共同事業体を組むJTBコミュニケーションデザインと連携し、「日本丸」のブランド力を高め、Webサイトを集客ツールとして活用できるようマーケティングに取り組みます。

## 7 組織運営の質的向上に向けた取組

一人ひとりの職員がいきいきと活躍できるよう引き続き次の取組を進めます。

#### (1) 風通しの良い職場づくり

管理職会議、職員ミーティングや日常業務での議論を通し、職場でよく話し合う風通しの良い職場運営を行います。

#### (2) 研修の実施

「コンプライアンス」や「個人情報保護」、「防災・緊急時対応」、「接客対応」、「スキル研修」等の研修を実施し、職員の意識や能力の向上を図ります。

#### (3) コンプライアンスの順守

研修や朝礼等によりコンプライアンス意識の向上を図ります。また、市職員を含めたコンプライアンス委員会の開催等により、コンプライアンスの順守を徹底します。

## 8 事業一覧表

(1) 帆船日本丸事業	
帆船日本丸公開  展示案内	<p><u>次の日を除く毎日公開</u>            月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日）            年次検査・大規模修繕期間（*12月2日～2月29日）  <u>年間約240日の船内一般公開を実施</u>            *大規模修繕工事の工期未定のため公開予定日は変動する  <u>ガイドボランティアによる船内ガイドを実施</u>  <u>「地恵のたび」等、旅行会社と連携した企画見学会の実施</u></p>
総帆展帆 (実施予定回数 11回)	4月27日(土)、5月19日(日)、6月2日(日)、7月15日(月・祝)、 8月25日(日)、9月16日(月・祝)・29日(日)、 10月14日(月・祝)・27日(日)、11月4日(月・祝)・17日(日) 市民ボランティアの協力により実施
親子展帆 (実施予定日数 5日・計10回)	7月15日(月・祝)、8月25日(日)、10月27日(日)、 11月4日(月・祝)・17日(日)
満船飾 (実施予定日数 16日)	4月29日(月・祝)・30日(火・祝)、5月1日(水・祝)・2日(木・祝)・ 3日(金・祝)・4日(土・祝)・5日(日・祝)、6月2日(日・開港祭) 7月15日(月・祝)、8月11日(日・祝)、9月16日(月・祝)・23日(月・ 祝)、10月14日(月・祝)・22日(火・祝)、11月3日(日・祝)・23日(土・ 祝)、3月20日(金・祝)
海洋教室	<p><u>半日・1日コース(募集予定人数300人)</u>  <u>宿泊コース(募集予定人数1600人)</u>            (マリンスクール4回合計約400人を含む)</p>
教育普及事業	<p><u>大人向け船の講座</u>            大規模修繕工事報告 5月6日(月・祝)            トールシップの帆装・艀装 11月9日(土)  <u>子供向け船の講座</u>            滑車のはたらき(又は船はどうして進むのか) 8月23日(金)</p>

(2) 横浜みなと博物館事業	
常設展示事業	<p><u>次の日を除く毎日公開</u></p> <p>月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日）</p> <p>年末（12月29日から12月31日まで）</p> <p>収蔵庫・書庫燻蒸期間（1月27日～1月31日）</p>
展示案内	展示案内ボランティアによる常設展示の説明（登録ボランティア33人）
特別展示事業	<p><u>開館30周年記念企画展「オドロキ！日本・海の世界と開発～海といつまでも」</u>（仮称）</p> <p>会期 7月15日（月・海の日）～9月29日（日）</p> <p>関連行事 海事関連施設見学会7月～9月、会場内ミニトーク8月、クイズラリー7月～9月</p> <p><u>開館30周年記念企画展「港・横浜の1980年代」</u>（仮称）</p> <p>会期 11月2日（土）～1月13日（月・祝）</p> <p>関連行事 記念講演会 11月、対話型ワークショップ 12月 フロアガイド10月～12月</p> <p><u>開館30周年記念展示「横浜みなと博物館の30年」</u></p> <p>会期 4月21日（日）～10月31日（木）</p> <p><u>柳原良平アートミュージアム特集展示</u></p> <p><u>「ボクが好きな客船」</u>（仮称）</p> <p>会期 3月26日（火）～8月25日（日）</p> <p><u>「海を見ながら・・・」</u>（仮称）</p> <p>8月27日（火）～12月22日（日）</p> <p><u>「十二支と宝船」</u>（仮称）</p> <p>12月25日（水）～3月22日（日）</p>
教育普及事業	<p>教育普及ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施（登録人数21人）</p> <p>横浜みなとキッズクラブ（小学生高学年向け／年間）</p> <p>〔 みなと博物館や日本丸、内水域、横浜港をフィールドにした体験型活動と同じメンバーで1年を通して行い、身近なところから海と船と港、くらしと環境などに親しみと関心を深める小学生（高学年）向け事業です。〕</p> <p>ワークシートを使った博物館・日本丸探検や工作教室、横浜港観察会、造船所見学会、シーカヤックなどを7回ほど実施し、活動結果を館内に展示します。〕</p> <p>キッズのためのクイズラリー（小・中学生向け／年間）</p> <p>〔 高校生以下100円の土曜日の小・中学生向け事業。展示をよく見て答えるクイズラリーを実施します。〕</p> <p>楽しい船の折り紙教室（こども向け／年間）</p> <p>サンダー・ペーパークラフト教室（ファミリー向け／年間）</p>

<p>教育普及事業</p>	<p>大人のためのクイズラリー(大人向け/6月、2月)          ホリデーペーパークラフト教室(ファミリー向け/年間)          ホリデー船の折り紙教室(ファミリー向け/年間)          カンタン! 船の工作教室(5月3日(祝・水))          なるほど! ミナト散歩ー開港の道コースー(5月12日(土))          ポンポン船をつくる工作教室(7月26日(木))          ソーラーで動く船をつくる工作教室(7月27日(金))          モーターで動く船をつくる工作教室(7月28日(土)、29日(日))          船と港の夏休み自由研究(8月10日(金)~19日(日))          親子の海図教室 (8月11日(土))          大人の海図教室(11月17日(土))          春休み・親子の楽しい船の見学会(3月下旬)          みなと博 館長トーク(5、7、9、11、1、3月各第1土曜日)          学芸員のワンポイント展示解説(偶数月各第1土曜日)</p>
<p>調査・研究・収集・出版活動事業</p>	<p><u>横浜港を中心とした資料調査・収集・研究及び出版</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映します。また、資料整理のデータベース化を推進します。</li> <li>・出版活動 博物館ニュース・年間行事予定表、企画展に合わせた図録等を出版します。</li> <li>・資料貸出し・レファレンス 資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを行います。また、写真、画像貸し出しについては規定を作成して、有料化を実施します。</li> </ul>
<p>ライブラリー事業</p>	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習、研究の場を提供します。データベース化(約2万3千冊)の蔵書情報はライブラリー、Web サイトで公開します。</p> <p>公開日・公開時間 博物館と同様</p> <p>利用方法(料金等) 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみの利用は1人100円。</p> <p>コピーサービス(有料)のほか、レファレンスサービスを行います。</p> <p>収集・整理 横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集・整理して配架します。また、図書のデータベース化を進めるとともに、保守点検を行い、良好な状態を維持します。</p>

その他	小中学校の体験学習の受入れのほか、アウトリーチ活動として、周辺区の教育事業や団体・企業の研修への出張講義など館外での活動や外部団体と連携した事業を実施します。
施設の貸出	利用料金や取り扱い規定等を整備し、特別展示室等のスペースを外部団体に利用してもらい、施設の有効活用と収入増を目指します。

### (3) みなとの賑わい創出事業

水辺の事業 シーカヤック教室	水辺の事業の柱として、NPO 横浜シーフレンズと連携した体験教室を開催します。 半日体験教室、平日体験教室、子どもシーカヤック教室 リピーター向け中級コース(1日ツーリングコース、レスキュートレーニングコース、横浜港満喫ツーリングコース) 横浜青年会議所等の団体や組織と連携した体験教室を開催 大学シーカヤック開催協力(神大・市大・国大)
カヌーポロ教室	NPO法人横浜カヌー倶楽部、横浜カヌー協会と連携しカヌーポロ教室を開催します。 子ども向け教室、一般向け教室 第7回帆船日本丸カヌーポロ大会(兼関東ポロリーグ神奈川大会)開催
パーク利用事業	フリーマーケット、吹奏楽演奏会など定期的なイベントを開催します。 横浜市のプロモーション事業と連携してイベントなどを積極的に誘致し、開催していきます。

### (4) 緑地管理及び研修施設事業

緑地の維持管理・活用	<u>安全管理・美化</u> 劣化・老朽化している箇所を速やかに補修改善するなど安全安心な施設管理を行います。また、樹木や草花、芝生等を良好に維持管理するとともに、美化清掃を実施し、来園者が安全快適に過ごせる空間を提供します。 グリーンボランティアの協力 バタフライガーデン、バッタの原っぱ、グリーンカーテンの取組 みなとみらい21まちかど花壇協力 桜木町駅前美化清掃協力(毎月第1水曜日実施)
	<u>撮影</u> メモリアルパークが撮影にとっても適した立地であることを積極的にPRし、更なる利用促進を図ります。 製作会社や担当者とのコミュニケーションを密にし、撮影や取材のニーズに合った体制を取ります。 撮影日時への柔軟な対応、控室の提供、相談・受付体制の充実

緑地の貸出	受付開始時期を6か月前からに統一し、午前のみ利用料金を新たに設定することで、多様なニーズに対応します。
-------	---

研修施設(訓練センター)の管理運営(貸会議室)	<p>駅からのアクセスが良い、低廉な利用料金で使いやすいなどの利用者からの評価を活用し、利用促進を図ります。利用者の利便性向上に努め、今まで以上にリピーター利用者の増加を図ります。</p> <p>貸出期間は12月29日～1月3日、1月28日～29日、全館停電日を除く、休館日を含めた年間とします。</p> <p>予約開始日を6か月前からに変更します。</p> <p>Web上での施設予約状況公開の範囲を6か月間にします。</p> <p>施設の使い方を積極的に公開します。</p> <p>什器類の計画的な更新及び環境の整備を行います。</p>
-------------------------	--

(5) 集客増に向けた重点取組	
団体への取組	<p>横浜市や神奈川県内の小学校の遠足・学校行事誘致のための、タイムリーな情報発信や訪問営業を実施。また、首都圏小・中・高等学校遠足の誘致、全国からの修学旅行誘致のための情報発信の継続、加えて横浜観光コンベンションビューローの教育旅行誘致事業と連携した活動を行います。</p> <p>JTB企画ユニット商品「地恵のたび」参画により全国からお客様誘致を図ります。</p>
広報・宣伝への取組	<p><u>報道機関への取組</u></p> <p>新聞社、TV・ラジオ局へ積極的に情報発信を行い、掲載率UPの営業活動を実施し、より多くの利用者に施設やイベントの情報を発信します。</p> <p><u>WebサイトとSNSの取組</u></p> <p>WebサイトとSNSを効果的に活用し、広報していきます。Webサイトでは企画展・展覧会、募集型事業、キャンペーン情報など、利用者にとって見やすく分かりやすい情報提供を行います。SNSでは利用者の分析結果を踏まえ、新鮮な情報を発信します。</p> <p><u>ガイドブック・専門誌及び地域誌への取組</u></p> <p>「るるぶ」「まっぷる」を始めとする旅行雑誌、「ミレア」を始めとする地域誌等への通年の情報提供を行います。また、月間「教育旅行」や「MM線沿線マップ」、「サイエンスサマー」等への広告を通じ情報提供を行います。</p> <p><u>旅行会社への取組</u></p> <p>JTBグループを始めとする旅行会社、JR東日本を始めとする鉄道各社旅行部門へ定期的に情報発信し、個人・団体観光客への情報提供や集客チャネルとして連携強化を図ります。</p>

	<p>訪日観光客への取組・多言語ガイドシステムのサービス提供を継続します。</p> <p>横浜観光コンベンションビューローと連携し、海外で開催される観光展などで海外メディアへの情報提供を行います。</p>
各種イベントの展開	<p><u>定期的イベント</u></p> <p>定期的に吹奏楽演奏会を年間13回(4月～11月)実施します。</p> <p>緑地活用のための企画、イベント誘致活動、営業を行っていきます。</p>
横浜市・近隣施設(博物館・美術館)との連携	<p>西区を始めとした地域の市民活動支援センター、地区センター、図書館などへの施設情報・イベント情報の提供を行い、施設の認知度の向上を図り、また、各区のイベントと連携して来館を促進します。</p> <p>近隣ホテルとの宿泊プラン企画、イベント情報の共有により、観光客(宿泊客)の来館を促進します。また近隣施設(美術館・博物館)連携による共同企画(クイズラリーやチケット特典等)の実施等により、相互の回遊を図ります。</p> <p>東京や横浜、関東エリアのミュージアム 95 施設が加入している「ミュージアムぐるっとパス」への参加を継続し、広報による知名度を高めるとともに、利用者、来館者増を図ります。</p>
海と山と丘の公園交流	<p>日本丸メモリアルパーク(横浜市)、神奈川県立相模原公園(相模原市)、国営アルプスあづみの公園(長野県安曇野市・長野県大町市)の3公園交流</p> <p>サンパチェンス写真コンクール 相模原公園(7月～11月)</p> <p>相模の大凧展示(1月)</p>

(6) 組織運営の質的向上に向けた取組	
風通しの良い職場づくり	<p>管理職業務調整会議及び職員ミーティングを毎週木曜日に開催</p>
研修の実施	<p>職員及び臨時職員向けに研修を実施します。</p> <p>防災訓練9月～10月、文化財防火デー訓練1月、みなとみらい21地区合同防災訓練を3月に実施します。</p> <p>コンプライアンス、個人情報保護等の全職員研修を2月～3月に実施します。</p>
コンプライアンスの順守	<p>研修や朝礼等により意識の向上を図るとともに、コンプライアンス委員会を12月頃開催します。</p>